

つながりを大切にし、
かかわりを深める児童生徒の育成



ユネスコスクール便り

No.110

令和4年2月8日
大牟田市I社コスクール
担当者通信

コロナ禍の便利ツール！

コロナ禍で学習活動が制限される中、各学校では学習交流等、ご苦労があるかと思えます。今回は、そんなときに便利なツール『jamboard』(ジャムボード)を紹介します。ジャムボードは、オンライン上で付箋紙を書き、出し合えることができます。無料で使用することができます。これがあれば、合同授業ができなくても、オンライン上で意見交流することができます。もちろん、学習だけでなく、研修会など様々な用途で使用できます。ぜひ、活用をご検討ください(不明な点はみなと小学校の下地まで)。



ジャムボードを用いた学習活動の様子(昨年11月)

質問	意見	感想
<p>授業の中で、このツールを使うメリットは?</p> <p>① 画面共有が容易で、全員が見やすい。</p> <p>② 付箋紙のように自由に書き込める。</p> <p>③ 色分けや消しゴム機能がある。</p> <p>④ 印刷機能がある。</p>	<p>画面共有が容易で、全員が見やすい。</p> <p>付箋紙のように自由に書き込める。</p> <p>色分けや消しゴム機能がある。</p> <p>印刷機能がある。</p>	<p>画面共有が容易で、全員が見やすい。</p> <p>付箋紙のように自由に書き込める。</p> <p>色分けや消しゴム機能がある。</p> <p>印刷機能がある。</p>

特色ある実践事例の紹介

地域を学ぶ 羽山台小学校

4年生は、世界遺産・文化財室の方をゲストティーチャーとしてお招きして、「羽山遺跡」について調べる学習を行いました。約2000年前の土器と出会い、学校の周りに古代の人々が生活していたことを知り、「どんな生活をしていたのだろう。」と、興味をもって話を聴いていました。「2000年前も、1000年前も、500年前も、この場所は人々が生活していた。」と話をしていただきました。また、発掘された実際の土器にも触れ、「約2000年前の人と同じもの触っているって不思議だなあ。」等と口々に感想を述べていました。



土器に触れる子どもたち

地域のことを考えて「大牟田川調査隊」中友小学校

中友小学校の4年生では、ESDの一環として環境教育に重点を置いた学習を進めています。市内の五つの小学校と連携した『川プロジェクト』の取組の一環として、「大牟田川調査隊」の学習に取り組み、大牟田川の観察や水質検査等を行いました。

昨年度は、「① 現在の大牟田川の生き物」「② 昔の大牟田川」「③ 市の取組」「④ 地域の取組」「⑤ 企業の取組」の五つのグループに分かれ、それぞれゲストティーチャーを招いて学習しました。そして、それぞれのグループが学習したことを一つにまとめ、保護者や地域の方に発信することができました。今後も、地域とともに様々な活動に取り組みながら、地域環境への理解がさらに深まることを期待しています。



大牟田川調査の学習に取り組み子どもたち

配慮とは何か ~福祉体験学習を通して~ 田隈中学校

本校の1年生は、福祉体験学習に取り組みました。1回目は「車椅子バスケットボールとボッチャ体験」をしました。桜花台クラブの方を招いて「配慮」について講義を受けた後、2種類のパラリンピック公式競技を体験しました。2回目は、大牟田高校の先生と生徒を招いて「視覚障がい疑似体験」を行いました。白杖とアイマスクを使って歩いたり、ガイドヘルパーを体験したりしたあと、点字を打つ道具を使う体験をしました。生徒たちは「社会の平等と身体が不自由な方への『配慮』が大切だとわかった。平等な社会を自分達で目指していきたい」と、社会の一員として福祉に対する意識を高めていました。



白杖とアイマスクを使って疑似体験する生徒